



1

1, 2 ○正負の数の計算

<加法>

・同符号…絶対値の和に共通の符号をつける。

$$(例) (-2) + (-4) = -6$$

・異符号…絶対値の差に絶対値の大きい符号をつける。

$$(例) (+2) + (-4) = -(4-2) = -2$$

<減法>

ひく方の数の符号を変えて, 加法にする。

$$(例) (-2) - (-4) = (-2) + (+4) = +2$$

<乗法・除法>

・同符号…絶対値の積や商に+の符号をつける。

$$(例) (-2) \times (-4) = +(2 \times 4) = +8$$

・異符号…絶対値の積や商に-の符号をつける。

$$(例) (+6) \div (-2) = -(6 \div 2) = -3$$

・累乗…指数の数の回数, その数をかける。

$$(例) (-4)^2 = (-4) \times (-4) = 16$$

3 ○>△…○は△より大きい。

○<△…○は△より小さい。(○は△未満)

○≧△…○は△以上。

○≦△…○は△以下。

4 絶対値…数直線上で, ある点に対応する点と原点との距離。

(例) 絶対値が2になるのは-2と2である。0の絶対値は0である。

5 (1) 火曜日の数から, 基準となる人数を求める。

(2) (平均) = (合計) ÷ (人数) または (平均) = (基準) + (差の平均)

6 (1) 基準とした点数との差の合計をそれぞれ求める。

(2) (平均) = (基準) + (差の平均)

7 素数…1とその数自身のほかには約数のない自然数。

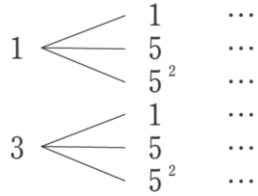
8 素因数分解…自然数を素因数の積で表すこと。

(例) 12を素因数分解すると  $2^2 \times 3$

$$\begin{array}{r} 2 \overline{) 12} \\ \underline{2} \phantom{0} \\ 6 \\ \underline{2} \phantom{0} \\ 3 \end{array}$$

9 75 を素因数分解する。

3 の約数  $5^2$  の約数



10 まず, 168 と 210 をそれぞれ素因数分解する。

最大公約数は共通な素因数の積, 最小公倍数は共通な素因数と残りの素因数との積である。

2

2 (1) (おつり) = (支払った金額) - (代金)

(2) (道のり) = (速さ) × (時間)

(3) 2 割引の代金とは  $10 - 2 = 8$  (割) の代金である。

(4) 1 辺が  $x$  cm の正方形が 6 枚である。

3 (1)  $x = -3$  のとき,  $x^2$  の値は  $(-3)^2 = 9$  である。 ※  $-3^2 = -9$  としないこと。

(2)  $2x - 3y = 2 \times x - 3 \times y$

4 (3), (5), (6) 分配法則を用いて計算するときの符号間違いに注意する。

5 (1) 1 から 10 までの自然数の和である。

(2) 1 辺に  $n$  個のおはじきを並べるとき, 右の図のようになる。

